

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32690

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K14052

研究課題名(和文) 小学校国語科におけるメタ認知を促す話し合い学習指導に関する実証的研究

研究課題名(英文) A Study of Instruction to Learn Discussion Strategy in Japanese Class

研究代表者

上山 伸幸 (UEYAMA, Nobuyuki)

創価大学・教育学部・講師

研究者番号：40780325

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：話し合いという言語活動を営む力は、人と人との関わり合いのなかで生きていくうえでたいせつな力である。しかし、国語科でそうした力をどのように育てるのかという学習指導論は必ずしも十分に体系化されていなかった。本研究では、既に有効性が実証されていた中学年を対象とした指導方法を、低学年及び高学年へ適応させ、指導の効果を検証した。また、教科書教材や実践事例の分析、現職教諭へのインタビュー調査の実施により、小学校1年生から6年生を対象としたカリキュラムのデザインを試みた。これらの結果、課題であった低学年と高学年における指導の具体が明らかとなり、文字化資料を活用した話し合い学習指導論を体系化することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国語科における話し合い学習指導研究の発展に貢献することができる。具体的には、小学校の国語の授業における話し合いの指導方法の研究や、中学校における指導方法の開発につながるため、学術的意義を有していると考えられる。また、新学習指導要領の全面実施の時期にあつて、公開された研究成果が授業改善に活かされれば、児童・生徒の言語活動の向上につながり、社会的にも意義が生じるといえる。

研究成果の概要(英文)：The ability to discuss is an important force in communicating with others. However, the teaching method was not clarified in the study of Japanese language education. Therefore, in this study, I practiced the teaching method for the middle grades of elementary school in other grades. Also, I analyzed elementary school textbooks and practical examples. In addition, I conducted interviews with elementary school teachers. As a result, an elementary school curriculum that teaches the ability to discuss using transcription materials was clarified.

研究分野：国語科教育学

キーワード：話し合い学習指導 文字化資料 小学校国語科 メタ認知

1. 研究開始当初の背景

話し合いという言語活動を営む力は、学習者が学校という場において他の学習者と協同的に学ぶためだけでなく、社会において人と人との関わり合いのなかで生きていくうえでたいせつな力である。近年、学校教育におけるコミュニケーション能力の育成が求められるようになり、国語科教育学においても研究が進められてきた(全国大学国語教育学会編,2013)。例えば、1980年代にはディベートやパネル・ディスカッションといった多様な活動形態についての研究が深められたり、2000年前後以降に学習者のメタ認知を促す実践が開発されたりしていた。しかし、話し合い学習指導論としての体系が明らかにはされていないと難しい、どのような学習内容を獲得させることをめざして、どのような学習活動を取り入れ、どのような教材を用いながら行えばよいのかの解明が課題となっていた。

こうした課題を踏まえ、筆者は、「方法知のメタ認知を促す話し合い学習指導の研究」を継続的に行ってきた(上山伸幸,2015)。その中では、先行研究の検討から話し合う力を育てる授業仮説を構築し、実験授業を通してその有効性を検証した。具体的には、学習者の話し合いを文字化した資料を教材とする指導方法を新たに開発し、小学校4年生を対象に実験授業を行うことで仮説の有効性を検証した。しかし、筆者のこれまでの研究では、共同研究を行った特定の教師の授業のみを考察対象としており、小学校低学年や高学年を対象とした調査も不十分であった。また、小学校1年生から6年生を対象とした、文字化資料を活用したカリキュラムの体系化が課題であった。

2. 研究の目的

本研究では、以下の2点を研究の目的として掲げた。

- ・小学校低学年と高学年を対象とした実験授業の実施による指導方法の検証と改善
- ・小学校全学年を対象とした話し合い学習指導論とカリキュラムの構築

1点目については、筆者の従来の研究では低学年と高学年の学習内容や指導方法が不明確であった。特に、仮説的に示した学習内容が実際に学習され得るものであるのか、中学年の指導方法が他の学年段階においても有効であるといえるのかについてそれぞれ検証する必要があった。

2点目については、各学年段階における授業データを総合し、学習指導論として体系化しつつカリキュラムを開発する必要があった。具体的には、学習内容が学年段階でどのように推移するのか、教材開発をどのように行うべきか、活用可能な指導方法であるか、といった内容について検討を行い、カリキュラムを作成し、話し合い学習指導論として体系化することを目的とした。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究では以下の方法で行った。

- ・小学校低学年と高学年を対象とした実験授業の実施とそこで得られたデータの分析
- ・小学校教諭を対象としたインタビュー調査の実施とそこで得られたデータの分析
- ・小学校の教科書教材及び先行実践例の分析を通じた学習指導論の検討

4. 研究成果

研究成果について、以下の3つの観点から述べる。

(1) 小学校低学年の授業分析

小学校2年生を対象とした実験授業の実施とその分析を行った。その結果、指導方法を有効に機能させるための視座として、以下の2点が示唆された(上山,2018c)。

- ・小学校低学年の授業では、「話し合いが続いたのはなぜか?」のような【焦点化した観点の提示】により、方法知への着目を促すことが求められる。
- ・小学校低学年の授業過程では、「似ている発言は?」や「どちらが〇〇か?」等の【比較の思考が働く発問】により、方法知の発見を促進できる可能性がある。

これらは、これまで検討が不十分であった低学年段階における、話し合い学習指導の具体を構想する際の基礎的な知見になるといえる。

(2) 小学校高学年の授業分析

研究開始時点は、高学年については文字化活動の意義についての検討に留まっていた(上山,2018a)。しかし、改めて高学年を対象とした授業を開発し、話題や論点に関するメタ認知を促す指導方法について検討した結果、以下の3点を解明することができた(上山,印刷中b)。

- ・発言レベルの方法知を学習した小学校高学年の学習者は、話し合いの文字化資料の分析を通して話題による発言傾向の異なりを発見できる。
 - ・高学年の学習者は、話し合いの展開に応じて「拡散のステージ」から「収束のステージ」への論点の再設定を意識的にできる可能性がある。
 - ・話し合い過程の思考のモードの使い分けが発言に影響することから、話題や論点の意識化が方法知の無意識的活用を促進する可能性がある。
- これらの成果は、話し合いの方法知を学習した後の活用を促す学習活動について、これまでの指導方法とは異なるアプローチがあることを示しているといえる。

(3) 小学校国語科における話し合い学習指導のカリキュラム

小学校における実践事例の分析により、文字化資料を活用した話し合い学習指導が各学年段階で実践可能であることが示唆された(上山,2018b)。また、小学校及び中学校の国語教科書の分析により、学習指導過程における振り返り活動の有無や、振り返りの観点の内実が明らかとなった(上山,2019)。これらの研究の結果、指導方法・学習内容・教材という要素の連関、すなわち、学習指導論の体系を解明することができた。

さらに、小学校教員へのインタビュー調査を通して、カリキュラムを実践的なものとするための観点や課題を明らかにした(上山,印刷中a)。具体的には、小学校の低学年・中学年・高学年の教員を対象としたインタビューを実施し、それにより学習指導論の意義や改善すべき点として、以下を指摘した。

- ・小学校の話し合い学習指導は、取り立て指導においては話題の工夫が手立ての主となることや活動形態の経験に留まるといった課題があり、関連指導が中心となる傾向がある。
- ・文字化資料を活用した話し合い学習指導は、若手教諭によっても成立し、小学校の低・中・高学年の各学年段階に適応可能である。
- ・学習内容を、転移する教科内容としての方法知に設定することには価値があり、よさの自覚化を通して日常における活用につなげることができる。
- ・教材については当事者性や可視性を備えた文字化資料の優位性を見てとることができ、学習者の文字化活動により教師の負担軽減や再現行為によるメタ認知が期待できる。
- ・振り返り活動をとり入れた指導方法は、可能な限りの焦点化により機能し、ボトムアップ的な指導により無意識に使っている方法知の意識化を促すことができる。
- ・記録の教材化が課題であり、教材開発の方法やワークショップの構想、文字化活動のあり方についてのさらなる検討が求められる。
- ・方法知の発見は比較的容易に達成される一方で活用には課題があり、無意識的活用のための関連指導との連動など、活用につながる授業開発が必要である。
- ・文字化資料を活用した話し合い学習指導の具体を提示するためのモデルの構築と、学年段階を越えたカリキュラム開発が必要な状況にあり、話題や教材開発・学習活動等の内容を含みつつ、シンプルかつ柔軟なモデルとして作成する必要がある。

以上に示した3つの観点に基づく成果を総合すると、研究の目的は概ね達成されたということが出来る。カリキュラムについては、今後さらなる実践をもとに精緻化する必要があるものの、学習指導論の体系化によって話し合いの授業づくりのための枠組みを示すことができた点には、意義があるといえる。今後は、本研究の成果を踏まえ、小学校の入門期や中学校段階における話し合い学習指導研究についてさらに探究したい。

【参考文献一覧】

- 上山伸幸(2015)『方法知のメタ認知を促す話し合い学習指導の研究 小学校国語科を中心として』学位請求論文、広島大学大学院教育学研究科
- 上山伸幸(2018a)「メタ認知を促す話し合い学習指導に関する実践的研究 学習者による文字化活動をとり入れた授業の分析」『日本教科教育学会誌』40(4),51-61
- 上山伸幸(2018b)「話し合い学習指導のカリキュラム開発に関する基礎的研究 小学校国語科における実践事例の分析を中心に」『国語教育探究』31,pp.20-27
- 上山伸幸(2018c)「文字化資料を活用した話し合い学習指導に関する実践的研究 小学校低学年におけるメタ認知を促す教師の働きかけ」『月刊国語教育研究』No.557,pp.42-49
- 上山伸幸(2019)「小学校・中学校国語教科書の話し合い教材に関する一考察 学習指導過程における振り返り活動の位置づけに着目して」『国語教育探究』32,pp.18-25
- 上山伸幸(印刷中a)「文字化資料を活用した話し合い学習指導論に対する小学校教諭の認識 低・中・高学年における実践後のインタビューを手がかりに」『国語教育探究』33
- 上山伸幸(印刷中b)「国語科における自律的に話し合う力を育成するための授業開発 小学校高学年を対象とした話題と論点に関する学習活動の分析を中心に」『日本教科教育学会誌』43(3)
- 全国大学国語教育学会編(2013)『国語科教育学研究の成果と展望』学芸図書

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 上山伸幸	4. 巻 32
2. 論文標題 小学校・中学校国語教科書の話し合い教材に関する一考察 学習指導過程における振り返り活動の位置づけに着目して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語教育探究	6. 最初と最後の頁 18-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上山伸幸	4. 巻 33
2. 論文標題 文字化資料を活用した話し合い学習指導論に対する小学校教諭の認識 低・中・高学年における実践後のインタビューを手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語教育探究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上山伸幸	4. 巻 43巻3号
2. 論文標題 国語科における自律的に話し合う力を育成するための授業開発 小学校高学年を対象とした話題と論点に関する学習活動の分析を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本教科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上山伸幸	4. 巻 31
2. 論文標題 話し合い学習指導のカリキュラム開発に関する基礎的研究 小学校国語科における実践事例の分析を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国語教育探究	6. 最初と最後の頁 20-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上山伸幸	4. 巻 557
2. 論文標題 文字化資料を活用した話し合い学習指導に関する実践の研究 小学校低学年におけるメタ認知を促す教師の働きかけ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 上山伸幸
2. 発表標題 自律的に話し合う力を育てるための授業開発 小学校高学年を対象とした実践の分析を中心に
3. 学会等名 第137回 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上山伸幸
2. 発表標題 文字化資料を活用した話し合い学習指導に関する研究 小学校教諭に対するインタビューを手がかりに
3. 学会等名 第134回 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----